様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年６月１０日現在

機関番号：３４３０９
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2008～2012
課題番号：２０３２００９６

研究課題名（和文）　歴史における女性の身体と看護・医療―生・老・病・死―

研究課題名（英文）　Women's Body, Nursing and Medical Care in History from the Viewpoint of Life, Old Age, Illness, and Death

研究代表者
細川　涼一（HOSOKAWA　RYOICHI）
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：20219190

研究成果の概要（和文）：本科学研究費補助金の補助金を得た共同研究の成果として、京都橘大学女性歴史文化研究所編『医療の社会史―生・老・病・死―』（思文閣出版、２０１３年３月）を刊行した。本書は、日本史を中心として、平安時代から近代までの医療の社会的展開とその変化を女性の身体論も視野に入れながら研究した共同研究である。比較研究の対象としては、中国・モンゴル・ヨーロッパ（イギリス・ドイツ）の事例を取りあげている。

研究成果の概要（英文）：
As the result of this joint research subsidized from 'Grants-in-Aid for Scietific Research', a specialist work was published, the title of which is "Social History of Medicine: Birth, Old Age, Illness, and Death"(Yuhikaku-Pub., Kyoto, 2013). This book deals with the development and social changes of medicine from the Heian period to the modern times mainly on the field of Japanese history, considering also the argument about female body. It also takes the historical examples in China, Mongolia, Britain, and Germany an objects of comperative study.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	3,100,000	930,000	4,030,000
２００９年度	3,200,000	960,000	4,160,000
２０１０年度	3,200,000	960,000	4,160,000
２０１１年度	2,900,000	870,000	3,770,000
２０１２年度	700,000	210,000	910,000
総　計	13,100,000	3,930,000	17,030,000

研究分野：日本中世史
科研費の分科・細目：史学・史学一般
キーワード：看護、医療、生・老・病・死

１．研究開始当初の背景

京都橘大学には、文学部・現代ビジネス学部・看護学部の人文科学・社会科学・自然科学の三つの分野にわたる学部があり、一方、女子大学として出発した経緯を踏まえて、女性歴史文化研究所という女性の歴史と文化をめぐる学際的研究を行う研究機関を擁して

きた。ことに女性歴史文化研究所では、女性の身体と、看護・ホスピタリティーに女性が果たした歴史的役割をめぐって、歴史学・看護学の教員を中心に共同研究を行ってきた。今回、その成果も踏まえて、女性の身体と出産、老・病・死をめぐる問題、また、家族や地域の中で看護・医療に女性が果たした歴史的な役割をめぐって、歴史学・文学・仏教美術史・看護学などの学際的な分野にわたる共同研究を行うことを企図して科学研究費の申請を行うことにした。

２．研究の目的

（１）これまで、この分野の研究としては、歴史学の分野に属するものとしては、第一に富士川游『日本医学史綱要』、石原明『日本の医学』、服部敏良『鎌倉時代医学史の研究』などの古典的研究を出発点とする医学史の成果がある。ことに古代を中心とする医学史の分野では、『日本医療社会史の研究』に代表される医療制度を都市政策の中で位置づけようとした新村拓の社会史的研究が、以上の古典的研究を承けて大きな成果をあげてきた。また、第二に、第一の分野とも関わるものであるが、慈善救済史・社会福祉史の視角から、辻善之助編『慈善救済史料』を出発点とする、病者を中心とする都市下層民が社会的にどのように処遇され、社会事業・福祉の対象とされてきたのかをめぐる研究があり、これは１９８０年代以降の身分制や被差別民衆史をめぐる研究、一方での仏教福祉史をめぐる研究の進展の中で大きな成果を示してきた。中山太郎『日本盲人史』を出発点とし、１９８０年代の河野勝行『日本の障害者』『障害者の中世』、島田等『病棄て』に至る障害者史・病人史の仕事も、病者を社会的処遇や医療・福祉の対象としての客体から、病者の側に主体を据える形での視座の転換があったとはいえ、大きくはこの分野と関わる仕事といえよう。しかし、この二つの分野では、医療・慈善救済事業に女性が果たした役割や、男性とは区別された形で女性の病者がどのように社会的に処遇されたのかという問題をめぐっては、関心が払われることは比較的薄かったように思われる（西山良平『都市平安京』や網野善彦『中世の非人と遊女』などの社会史的研究に代表されるように、女性をめぐる問題に全く関心が払われなかったわけではない）。一方、１９８０年代の女性史総合研究会編『日本女性史』以来大きく研究が進展した女性史の分野では、女性のライフサイクルや女性の身体をめぐる問題にも次第に関心が広げられ、近世の女性の出産の問題をめぐって、沢山美果子『性と生殖の近世』に見られる単著が刊行されるなどの成果も示した。本共同研究者にも、日本中世史の事例として、田端泰子・細川涼一『女人、老人、子ども』（日本の中世４）、細川涼一「女性・家族・生活」のような、女性のライフサイクルを中心とした女性史の研究成果がある。以上の歴史学の分野からの成果に対して、臨床を前提とする看護学の立場からも看護史の研究がある。しかし、看護学の立場からの女性と看護の歴史をめぐる研究は、看護師・助産師の教育・養成のための歴史的研究という実践的な目的もあったため、ほぼ近代看護師（看護婦）の歴史をめぐる研究に収斂されてきた傾向にあり、これまで、前近代を含めた歴史学の立場からの女性と身体、看護・福祉をめぐる研究とリンクすることはあまりなかったといえよう。本共同研究では、以上に述べてきた主に文献史料に依拠した歴史学の立場からの医学史、慈善救済史・社会福祉史、女性史、臨床経験を前提とする看護学の立場からの看護史を学際的に踏まえ、女性の身体と看護・医療、女性の生、老、病、死をめぐる問題を総合的に研究しようとするものである。以上の研究動向は日本史を中心として述べてきたが、ヨーロッパ史の分野でも、女性と身体をめぐる研究は近年の身体論の流行もあって研究の発展を示しつつあり、本共同研究者の一人である南直人には、女性の身体と食・栄養の問題をめぐって、近代ドイツの事例をめぐる『身体と医療の教育社会史』の共著書がある。本共同研究ではこれらの研究も踏まえて、女性の身体と看護・医療をめぐる日本と西洋・アジアの比較史的な研究も行うようにしたいと考える。

（２）日本の事例を中心として、古代から中世・近世・近代にわたり女性の身体がどのように見られ、女性の生、老、病、死をめぐるライフサイクルがそれぞれの時代にどのように営まれたのかを、とくに出産や病に際しての女性に対する看護・医療のあり方を中心に明らかにする。また、女性は歴史の

中で看護・医療の客体としてのみではなく、自ら看護・医療の主体として家族や地域の中で大きな役割を果たしてきた。その歴史的事実を、近代看護師の歴史のみではなく、前近代をも含めた大きな歴史の中で明らかにしていきたい。さらに、共同研究者のヨーロッパにおける食や衛生観念に関するこれまでの研究や、中国仏教絵画に描かれた女性の身体をめぐる研究、イスラム社会における「水」をめぐる観念の歴史研究も踏まえて、女性と身体・看護・医療・衛生観念などをめぐる歴史が日本とヨーロッパ・アジア（中国・西南アジア）でどのように異なった展開を示し、近代に入ってヨーロッパの女性の身体・看護・医療・衛生観念をめぐる思想が日本にどのような影響を与えたのか、比較史的な視座から明らかにすることにしたい。本共同研究が歴史学・看護学のみならず文学の研究者（近代日本文学・ロレンスの身体論の研究者）も擁することによって、さらに女性の身体と看護・医療をめぐる問題が文学作品の中にどのように反映されているのかをも解明したいと考えている。

３．研究の方法

本研究は、五年間で完成するものとし、第一年目から四年目にかけて共同研究・調査活動を行い、五年目に研究成果の執筆・刊行を行う。

４．研究成果

本科学研究費補助金の補助金を得た共同研究の成果として、京都橘大学女性歴史文化研究所編『医療の社会史―生・老・病・死―』（思文閣出版、２０１３年３月）を刊行した。その目次は以下のとおりである。

Ⅰ　中古・近世の医療と社会

平安中後期における貴族と医師（増渕徹・文学部教授）

鎌倉幕府の医師（細川涼一・文学部教授）

『本草綱目』に見る中国医療の到達点（島居一康・文学部教授）

《コラム》敦煌石窟壁画からみた民衆の喪葬礼儀――「老人入墓図」を取り上げて（王衛明・文学部教授）

室町・戦国期の山科家の医療と「家薬」の形成――「三位法眼家傳秘方」をめぐって（米澤洋子・非常勤講師）

曲直瀬玄朔とその患者たち（田端泰子・名誉教授。元学長）

《コラム》モンゴル時代の文化交流――医術のケース（小野浩・文学部教授）

Ⅱ　近・現代の医療と社会

幕末京都における医家と医療（有坂道子・文学部准教授）

明治前期の村と衛生・病気――京都府乙訓郡上植野村を対象に（高久嶺之介・文学部教授）

《コラム》Ｗ．Ｂ．イェイツ・シュタイナッハ手術・長寿法（浅井雅志・人間発達学部教授）

錯乱と祟りの間――森鴎外『蛇』の問題圏（野村幸一郎・文学部教授）

母乳が政治性を帯びるとき――世紀転換期ドイツにおける乳児保護の実態と言説（南直人・文学部教授）

《コラム》日本の看護基礎教育における死の教育についての概観（奥野茂代・非常勤講師。元看護学部教授）

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１２件）

①細川涼一「網野善彦『中世東寺と東寺領荘園』」『日本史研究』５９１号、２０１１年１１月

②細川涼一「石清水八幡宮の柳禅尼如鏡と叡尊」『佛教史研究』４７号、２０１１年１月

③細川涼一「黒田俊雄『日本中世の国家と仏教』」『日本史研究』５７４号、２０１０年６月

〔学会発表〕（計２件）

①細川涼一「日本中世の非人」日韓歴史家会議、２０１１年１１月１９日、ソウル

〔図書〕（計５件）
①京都橘大学女性歴史文化研究所編『医療の社会史―生・老・病・死―』（思文閣出版、２０１３年３月。本共同研究の研究成果報告書）
②細川涼一『日本中世の社会と寺社』（思文閣出版、２０１３年３月）

６．研究組織
(1)研究代表者
細川　涼一（HOSOKAWA　RYOICHI）
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：21219190

(2)研究分担者
松浦　京子（MATSUURA KYOKO）
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：60238954
(H24:連携研究者)
横田　冬彦（YOKOTA　FUYUHIKO）
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：70166883
(H24:連携研究者)
増渕　徹（MASUBUCHI　TORU）
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：50298692
(H24:連携研究者)
島居　一康（SHIMASUE　KAZUYASU）
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：70041100
(H24:連携研究者)
王　衛明(WANG　WEIMING)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：50248613
(H24:連携研究者)
田端　泰子(TABATA　YASUKO)
京都橘大学・文学部・名誉教授
研究者番号：20088016
(H24:連携研究者)
小野　浩(ONO　HIROSHI)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：40204250
(H24:連携研究者)
有坂　道子(ARISAKA　MICHIKO)
京都橘大学・文学部・准教授
研究者番号：30303796
(H24:連携研究者)
高久　嶺之介(TAKAKU　REINOSUKE)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：40104608
(H24:連携研究者)
浅井　雅志(ASAI　MASASHI)
京都橘大学・人間発達学部・教授
研究者番号：70149615
(H24:連携研究者)
野村　幸一郎(NOMURA　KOICHIRO)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：10290230
(H24:連携研究者)
林　久美子（HAYASHI　KUMIKO）
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：70301645
(H24:連携研究者)
南　直人(MINAMI　NAOTO)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：20181951
(H24:連携研究者)
奥野　茂代(OKUNO　SHIGEYO)
元・京都橘大学・看護学部・教授
研究者番号：90295543
(H24:研究協力者)
高橋　みや子（TAKAHASHI　MIYAKO）
宮城大学・看護学部・教授
研究者番号：20070766
(H24:連携研究者)
鈴木　要子（SUZUKI　YOKO）
元・京都橘大学・看護学部・講師
研究者番号：50335163
(H20～H21)

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：